

大阪の福祉を知る

みんなの情報誌

ウェルおおなが

vol.159

2025年12月号
隔月発行(偶数月1日)

特集

福祉職場の業務改善(生産性向上)とは? ~質の高いサービスを届けるために~

- 図書・資料閲覧室からのお知らせ
- 講座案内



福祉職場の業務改善(生産性向上)とは?

～質の高いサービスを届けるために～



福祉職場で“生産性向上”といわれても、職員の中には、違和感を持つ人もいるかもしれません。ここでは、福祉職場でいう“生産性向上”とは何かをひも解きながら、今後進めていくべきことを考えてていきます。

「働きやすい魅力的な職場」を実現するために

国が提案しているのは、現在の業務内容を施設ごとに見つめ直して「業務改善」を行うことで、働きやすい職場環境をつくろうというものです。ここでは、先に始まっている介護の職場を例に挙げ、具体的に業務改善の進め方とポイントを整理してみましょう。

(課題の抽出から改善に取組む流れ)

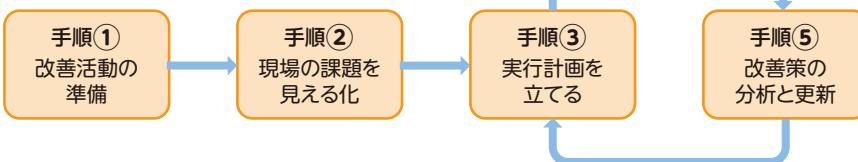
①改善活動の準備

まず職場内で意識を共有し、改善活動のためのチームを立ち上げ、リーダーを決め、経営層や職場全体へ取組み開始を伝えます。

②現場の課題を見る化

日常感じている疑問や、問題と考えていることを明らかにする(アンケー

業務改善を進める手順



高齢化と少子化が急速に進む昨今、生産年齢人口は大幅に減少しています。そのため、人材不足が激しさを増し、高齢化による介護ニーズの増加と多様化にも対応する必要に迫られる高齢者施設や、障がい者・保育施設を含む福祉職場では人材確保が困難になってきています。

限られた人材で質の高いケアを届けることが求められてくるため、介護現場の生産性向上についての議論が進み、2024年の厚生労働省のガイドラインでは、生産性向上委員会の設置が義務化され、業務改善の手順が明示されました。

そこで、今回の特集では、実際に福祉職場で始まっている“業務改善により生産性向上させる”という取組みについて、現場を取材し職員の声を聞き、専門家の話も伺いながら、課題解決へのヒントを探ります。

トや、一つの業務にかかる時間を把握するなど)。

③実行計画を立てる

チームとして、優先して解決する課題を絞り、役割分担して改善方法を検討し、課題解決までの具体的な計画を立てる。

④改善活動に取り組む

試行錯誤しながらも、進むことが大切です。途中経過を把握し、業務改善の達成に必要な修正を図りながら、小さな成功を積み重ねる。

⑤改善策の分析と更新

取り組んだ内容を分析し、今後改める部分あれば次の計画に反映する。優先度が次に高い課題についての改善活動を検討。取組みのサイクルを作り、改善活動を継続させていく。

「業務改善の課題の解決策」へのヒント

●成功体験を重ねてモチベーションを高める

職場の「整理整頓」は、業務改善への第一歩です。事務用品やケア用品、掃除道具などの置き場所を決めると、探す時間を減らせます。小さな改善の実感を重ねると、業務改善への意識は高まります。

具などの置き場所を決めると、探す時間を減らせます。小さな改善の実感を重ねると、業務改善への意識は高まります。

●間接業務を行う人材の確保

介護職員の業務内容を直接介助する業務と間接業務に仕分けし、間接業務は資格がなくてもできるアシスタントワーカー(P5参照)や介護助手が行う方法もあります。それにより、介護職員が利用者を直接介助する業務に専念することでケアの質やコミュニケーションの時間も確保できるようになります。

●ICTやテクノロジー機器の導入

介護分野においては、ICTの活用や介護機器の導入を進めている施設もあります。「介護記録の手書きを減らし、ICTで管理・確認することでラクになった」「利用者の睡眠状態をタブレットなどで確認できる機器で夜間巡回の頻度を減らせた」「最新の入浴機器は利用者にも職員にも好評」といった声も聞かれます。施設の規模や用途に合わせて補助金や助成金を活用しながら、ICTやテクノロジー機器を取り入れ、職員の負担軽減につなげる方法もあります。



P2以降では、高齢者介護と障害者支援の施設が、それぞれ異なる方法で業務改善につなげたケースを紹介しています。施設の状況に合った方法を見つけて業務改善を進めてみてはいかがでしょうか。

職員一人ひとりの存在感が際立つ小規模施設こそ、業務改善が急務

株式会社サミツ いきいきグループホーム日本橋

取締役(CFO) 澤井 健人さん

管理者・スーパーバイザー 葉上和美さん



▲澤井さん(一番右側)、葉上さん(一番左側)と、ユニットリーダーのみなさん。

約3年前に医療関係から介護施設の経営に参入し、複数の施設に携わる澤井さんは、「介護施設の運営に関わり始めた頃から数々の課題に直面し、それは介護業界全体に及ぶ問題がはらんでいると感じました」と話します。

いきいきグループホーム日本橋で浮かび上がった課題は、「2~4階のフロア間の情報共有・応援態勢が困難になっている」「介護記録等が手書きで時間的負担が大きい」「職員によって仕事量に差があり、できる職員に仕事が集まりすぎる」「外国籍の職員との意思疎通に難がある」といったことでした。

課題に直面し着目した伴走支援プログラム

「高齢者の増加や働き手の減少が進む中で、従来の形にとらわれずに根本的なところから変えないと、利用者さんにとって居心地のいい介護施設の実現は難しいと考えていました」と澤井さん。そこで、大阪府介護生産性向上支援センターが進めていたセミナーに参加し、

「働きやすい職場づくり伴走支援プログラム」に参加することを決意されます。というのも、そのプログラムの中身が、「働く職員の日常業務の負担を軽くし、利用者をケアする時間を増やすことで利用者の満足度を高める」というところに力点が置かれ、澤井さんが課題に挙げていた大部分に関わるものだったからです。

現状を正しく把握したうえで改善策を講じる重要性を学んだ澤井さんは、早速、管理者やユニットリーダーなどとプロジェクトチームを編成。現状把握のためアンケートを実施しました。その結果、以前から課題となっていた「介護記録が手書きで時間がかかる」「夜間巡回時の利用者の状況確認にストレスを感じる」といった職員の負担が浮かび上がりました。

そこで、現状打開に効果があると考え、2種類の機器の導入を決めました。

これからの施設の形を提案していきたい

「私たちは介護ベンチャー。介護施設

の仕組みを、より良いものに変えていきたい」と強調する澤井さん。伴走支援プログラムへの参加をきっかけに、職員にも改善意識が生まれ、事務用品などの備品から食器棚の皿まで全フロアで位置を統一することで職員の業務と応援態勢がスムーズに。外国籍の職員へも重要な伝達事項の漏れなどがないようにスマートフォンの翻訳機能を使うなど、業務改善が進行中。魅力ある施設を追求し、職員用のリフレッシュルーム、ペット同伴可能な人工芝の屋上テラスも整備する澤井さん。「職員一人ひとりが施設全体の評価につながりかねない小規模の施設こそ、業務改善を大胆に行うべきだと考えています。ここをモデルケースにして、保有する同法人の施設にも広げ、いずれは他法人とも連携しながら障がい者と高齢者の方々をお預かりできる総合施設をつくり、地域の信頼を得ていきたい」と力強く語りました。

大阪府介護生産性向上支援センター「伴走支援プログラム」で導入した機器

■介護トータルシステム『寿』

手書き書類の手間と時間を大幅削減

タブレットやスマートフォンで、介護記録を簡単に作成でき、残業時間を削減します。同施設では見守りカメラやナースコール、バイタル計測機器などを運用。その他に必要な種類のデータを追加で連携でき、施設オリジナルのデータ管理システムが構築できる。



職員の声 ▶葉上さん

連携が可能な2台の機器の導入により、職員の業務改善につながりました。スマートフォンでも利用者さんの状況をデータで確認できるので、急病時等に引き継ぐ医師への状況伝達もスムーズ。また、手書き記録の作業と、夜勤者の事務負担が大幅に減りました。

■センサー付き見守りシステム『aams/アamus』

夜間見回りでの利用者と職員のストレスを軽減

同施設では、離れた場所から、利用者の心拍・呼吸・離着床・睡眠の状態などを見守ることが可能。布団やマットの下に設置できる薄型設計。着床時の利用者の状態が連携したタブレットやパソコンにデータ表示され確認できる。



職員の声 ▶ユニットリーダー

夜間巡回時の呼吸確認等の回数が減ることで、利用者の安眠につながり、また職員が入室する際に利用者が起きないように気遣うストレスも軽減されました。利用者の状態がアラートなどで通知されるため、緊急時の対応もスムーズに行えるようになりました。

職員から挙がった悩みを きっかけに業務改善が進行中

社会福祉法人 大阪自彌館 障害者支援施設 エフォール
施設長代理 兎本 尚絃さん グループリーダー 井本 真梨子さん

- 障害者支援施設 エフォール
- ・利用者数／定員50名
 - ・職員数(アルバイト含む)／70名

1912年に創設された社会福祉法人大阪自彌館が運営する「エフォール」は、1995年に開設された障害者支援施設で、利用者一人ひとりに合わせた生活支援を行っています。

同施設の施設長代理の兎本さん、グループリーダーの井本さんにお話を伺いました。「利用者への支援の範囲も多岐にわたるため、職員は多忙な状況が続いていました」と兎本さん。井本さんは「毎月行われる各グループのリーダーが集まる会議で、“洗濯物がたまっている、洗ったあとも整理が追いついていない”という声が多く、洗濯業務が改善するべき課題であることが見えてきました」と話します。

現場を確認すると、洗って干して取り込むという一連の作業が追いつかず、洗濯物がたまってしまう状況であることが分かったとのこと。

アシスタントワーカーの採用で職員の業務を改善

「これは対策が必要だと考えて、法人内の高齢施設の職員に相談し、“アシスタントワーカー(※)の導入を検討してみては”とアドバイスをもらいました。早速調べたところ、現場の課題解決につながる取組みだと感じ、アシスタントワーカーを導入するための研修に参加しました」。兎本さんは「その研修の中で、介護職の業務を直接介助(食事、排せつ、入浴など)に“携わる業務”と“携わらない



▲利用者の名前が記された衣服の整理棚



▲衣服を束ねるゴム紐は名札付き

い業務(アシスタントワーカーの業務範囲)”に仕分ける考え方を学びました。当時はその区別が

曖昧で、職員が助け合いながらすべての業務をこなす状況でした。そのため、介護職が直接介助以外の業務に時間を多く割いていたことも分かり、業務を分担・整理し、改善していく必要性を認識できました」と語ります。

直接介助以外の業務を整理して、どの業務をアシスタントワーカーにお願いするかを、兎本さんがリーダーを務めるアシスタントワーカープロジェクトチームで検討し、洗濯係を1名募集することになりました。現場に入ったアシスタントワーカーは、前職で同様の業務を担当していた経験があり、テキパキと取り組みます。利用者の入浴日前日に衣類を用意し、足りないものはメモで知らせてくれるため、入浴時の準備がスムーズになり、課題の改善が進みました。

業務改善の意識が高まり さまざまな提案が挙がる

靴下や衣服に書かれた名前は、乾燥機にかけるとインクが薄れて判別しづらく、誰のものか分からなくなることが現場の課題でした。「その話を聞いた地域の裁縫ボランティアさんが手伝いを申し出てくださいり、50人分の靴下や衣服の名前を縫い付けてくださいました。感謝してもし足りないです」と兎本さん。

それらの取組みにより、未洗濯や、衣服の名前間違いが大幅に減りました。「バタバタと



▲兎本さん(右側)と、井本さん

服を探すことが無くなり、最近は心にゆとりを持って利用者さんと関わるようになりました」と話すのはケアスタッフの木多さん。

さらに洗濯業務の改善は進み、着替え用整理棚に利用者の名前が記されたことで衣服の置き場が一目瞭然に。また、衣服を束ねるゴム紐に名札を付けることで、移動時の取り違えを防げるようになりました。

また、アシスタントワーカーも導入当初は1名だけで洗濯業務が中心でしたが、業務改善の意識が広がり、現在は、4名でシーツ交換や洗面台掃除などの幅広い業務を行い、活躍しています。

最近では、職員からも改善の提案が積極的に挙がるようになり、洗面周りの整理や備品の配置の見直しなど、気づいたことを共有し合いながら、より快適な環境づくりに取り組んでいるそうです。

さらに兎本さんは、施設内の全パート職員を対象とした交流会(異なる業務内容の方も含む)を計画中です。「交流会を通じて、日頃の気づきや業務改善の工夫を語り合うことで、取組みを施設全体に広げたい」と話しました。

※アシスタントワーカー：介護施設等で、掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充といった直接介助に携わらない業務を担当する“介護職場の人材”です。(P.5参照)



▲ケアスタッフの木多さん(上段右側)と中島さん(下段左側)とアシスタントワーカーのみなさん

「自分が働きやすくする工夫」が、業務改善や生産性向上につながる

藤野経営労務管理事務所
副所長 社会保険労務士 藤野 和良さん



高齢者人口が急増し、働く世代が減る日本の現状を考えると、福祉職場の生産性向上を進めるために、業務改善を行うことは喫緊の課題です。人材確保が難しい高齢者介護や障害者支援の施設では、外国籍の職員に頼らざるを得ないところも出てきています。

そういう現況を踏まえつつ、藤野さんは「『福祉職場の生産性向上を進める』という方針は正しいのですが、それをスムーズに福祉職場に取り入れていくためには、考えなければならないポイントがいくつかあります」と話します。

現場の課題を抽出し、改善する意義を共有

どんな職場でも何か新しいものを取り入れようとすると、日々の業務が動いている現場では、気が進まない職員が出てきます。藤野さんは「多忙な現場では“効果の分からない業務改善を考える時間がない”ということになります。そこで、“生産性向上に取り組んではほしい”といったトップダウンのような言い方ではなく、“自分たちの職場環境が良くなる工夫を出し合ってみよう”というように、自分事として参加したくなるメッセージを届けることが重要です」と、業務改善をスムーズに進めていくコツをアドバイスします。

経営側は、現場の協力を得ながら改善を進める

まずは「日々の業務を進める上で役に立つ新たな工夫を発見し、それを活かすことが業務改善につながる」という意識を共有することが大切」と話す藤野さ

ん。その結果、職員に時間的ゆとりや心の余裕が生まれ、施設の利用者とのコミュニケーションをこれまで以上に図ることができ、利用者の利益にもつながると解説します。

また、「業務改善プロセスは、抽出された現場の課題に経営側も職員もしっかりと向き合い、チーム一丸となって進めることが重要で、それによってサービスの質的向上と量的な効率化を着実に進めることができます」と藤野さん。

施設ごとに異なる、改善が必要なポイント

業務改善とは、ICTやロボットの導入などに限定されるものではありません。藤野さんは「職員同士で、“これって、もっとスムーズにできるやり方ないかな？”“これ、いつも不便だから、どうにかしたいな”などと知恵を出し合い解決策を考え実行する取組みが業務改善です」と語ります。

日常業務の改善は、すぐにでも始められるはずなのに、どうしても忙しさに紛れて、自覚している問題点が改善されていない施設が少なくないといいます。

ある高齢者の介護施設では、利用者の杖の置き場がなく、杖を置く場所を決め、そこにスポンジを貼り付けたことで、杖をしっかり固定できるように改善できたという例が報告されています。

また、ある障害者支援施設では、浴室のボディソープのそばに浴槽洗浄剤が置かれたりしていたため、入浴用具の置き場所を決めたところ、使用時に間違えることがなくなり、業務改善につながったという例もありました。

藤野さんは「例にも挙げましたが、保

育も含めた福祉施設では、事務所の整理整頓、各部屋にある道具や補助具などの設置場所を決めることが、業務改善の第一歩になります。時給1000円以上の時代に、毎日30分間ものを探してたら、1年でどれだけ費用が無駄になるでしょうか」と、少しでも早く業務改善への一歩を踏み出す重要性を強調しました。

「そういう意味では、業務改善については、置き場所を明確にすることなどを含めて、自社独自のマニュアルを作成し、日々改善点を見つけて更新していくことも効果的です。一貫した新人教育に役立てられるうえ、採用面接の際に見てもらうことで就職後のギャップを減らすこともできます。さらに、職員が最新の業務を共有できるメリットも得られます」と藤野さん。

業務改善を進めれば その効果は大きく広がる

さらに、業務改善による生産性向上は、人手不足の中で今後も求められていくはずです。そこで、藤野さんは「まずは自分のためになることを、身近なところから取り組んでみましょう。やがて、それは自分のためだけでなく、利用者や地域社会のためにになることを実感するでしょう。そうなれば、業務改善に取り組む姿勢そのものがプロフェッショナルとしての在り方の一部となり、モチベーションの維持、リーダーの育成、さらにはチーム力の強化にもつながる土台として位置づけられるようになるはずです」と言葉に力を込めました。

アシスタントワーカー導入等による福祉・介護人材支援事業

福祉・介護の現場で「アシスタントワーカー」活躍中!

アシスタントワーカーとは?

介護施設等において掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充等、直接介助に携わらない業務を担当する“介護職場の人材”です。

9月22日(月)と10月27日(月)に、専門アドバイザーによる令和7年度アシスタントワーカー導入取組み施設へのWEBコンサルティングを実施しました。

これまでの取組みを振り返り、各施設における課題や工夫を共有し、今後の方向性を整理しました。

今後は、採用のさらなる促進に向けて、周知や広報にも力を入れていく予定です。
福祉・介護の現場で「誰かの支えになる仕事をしたい!」「自分の得意を活かして働きたい!」という方は、ぜひ下記までお問い合わせください。



令和7年度アシスタントワーカー導入取組み施設

アシスタントワーカー
募集中!

社会福祉法人まんてん

特別養護老人ホーム らんまん鶴見

〒538-0053
大阪市鶴見区
鶴見5-2-10
☎06-6933-8830



「のんびり、ゆったり、ほがらかに、いつまでも自分らしい生活のお手伝い」の法人運営理念のもとに、入居者様が、自分らしい生活を送れるように、関わりを行っております。

入居者様の身体介助ではなく、居室掃除や食事の準備や片付け等、入居者様の生活を支える支援を私たちと一緒にお願いします。

短時間での勤務が可能!介護経験不問です!ぜひ、一緒に働きましょう。



社会福祉法人日本レンケラー財団

障害者支援施設 アテナ平和

〒545-0003
大阪市阿倍野区
美章園3-7-2
☎06-6629-2062



「一人ひとりの個性及び人権を尊重し、誰もが住みよい共生のまちづくりを推進する」を施設方針とし、地域や人とのつながりと、ご利用者が持つ可能性を大切に、日々支援を行なっています。

直接的にご利用者に関わることはありませんが、ご利用者にとって必要な生活の一部を手伝っていただけませんか?お部屋や浴室の掃除、洗濯物たたみなど、時間はスポットワークが可能です。



社会福祉法人ほしの会

特別養護老人ホーム ライフカーサ

〒557-0034
大阪市西成区
松3-12-35
☎06-6661-0999



固定観念にとらわれず、利用者様一人ひとりの個性やニーズに合わせた柔軟なケアを重視しております。

利用者様とのコミュニケーションを大切にし、希望や意見を取り入れ、笑顔と自由をつなぐ特別な施設を目指します。

資格や経験がなくても大丈夫。先輩スタッフが丁寧にお教えします。
ご入居者さまにとって「安心できる毎日」を、私たちと一緒に支えていきませんか?



大阪公立大学森之宮キャンパス開設記念イベント
大阪公立大学医学部附属病院・大阪市立総合医療センター

第4回
合同市民医学講座 **人生百寿時代** ~知って安心、認知症と感染症のいま~

日時 **12月7日(日)** 14:00～16:00(開場 13:00) 参加費無料 事前申込制

場所 大阪公立大学 森之宮キャンパス 大阪メトロ中央線・長堀鶴見緑地線・JR大阪環状線 各「森ノ宮」駅 徒歩約13分

第1部 認知症の原因を見て取り除く診療の最前線とさらにその先

座長／大阪市立総合医療センター 副院長：小西 啓夫

演者／大阪公立大学大学院医学研究科 病因診断科学教授：樋口 真人

第2部 これからの呼吸器感染症との付き合い方

～コロナ禍を経て変わったこと・変わらないこと～

座長／大阪公立大学医学部附属病院 副院長：前田 清

演者／大阪市立総合医療センター 感染症内科部長：白野 優徳



問合せ 大阪公立大学医学部附属病院 〒545-0051 大阪市阿倍野区旭町1-5-7 ☎06-6645-2121(代表)

令和7年度 大阪市認知症医療・福祉専門職研修 **無料** **先着500名**

前頭側頭型認知症／意味性認知症の特徴を踏まえたケア提供と支援を考える



大阪市立弘済院の認知症ケアの実績を活かし、医療・福祉の専門職が連携・理解を深めることで、認知症ケアの質向上を目指す研修を開催します。

日 時 **令和8年1月25日(日)** 14:00～16:30(開場 13:30)

会 場 阿倍野区民センター 大ホール

対象者 認知症の人のケアに携わる専門職の方々

内 容 第1部▶認知症の理解を深め制度を知ることの重要性

第2部▶事例を通して考える認知症ケア・支援

『大阪市行政オンラインシステム』から申込

《手続き名》
令和7年度大阪市認知症医療・福祉専門職研修「前頭側頭型認知症／意味性認知症の特徴を踏まえたケア提供と支援を考える」
参加申込(福祉局)

QRコードからのアクセス→
(スマートフォン用)



申込期限:令和7年12月19日金23:00まで

問合せ 大阪市福祉局高齢者施策部地域包括ケア推進課 〒530-8201 大阪市北区中之島1-3-20
☎06-6208-8051 ☎06-6202-6964

大阪市立十三市民病院 **申込不要** **無料** **マスク着用**

いきいき健康セミナー

**感染症を防いで健康な冬を!
～正しい予防と早めの対策～**

感染管理特定認定看護師 谷尾 敬さん

日時 **12月16日(火)**
14:00～15:00



目の健康チェック!

～眼科健診って本当に必要?～

視能訓練士 柏原 仁美さん

視能訓練士 松本 あかねさん

日時 **令和8年1月20日(火)**
14:00～15:00



場所 十三市民病院 9階 すかいルーム

問合せ 大阪市立十三市民病院 地域医療連携室
〒532-0034 大阪市淀川区野中北2-12-27 ☎06-6150-8000(代表)

講座案内

福祉従事者向け研修

申込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日 時	受講対象者	講 師	内 容	その他の
職場研修担当者研修	令和8年 1月27日(火) 10:00~16:30	大阪市内の福祉施設・事業所に勤務する職員	株式会社 エイデル研究所 代表取締役 コンサルタント 大塚 孝喜	職場研修の重要性を認識し、職員育成や研修の仕組みの基本を学びます。さらに、研修を企画・実施する際の具体的な手順や、研修がきちんと効果をあげられているか評価する方法について学びます。	定 員:36人 締 切:1月6日(火) 受講料:3,000円
OJT推進研修	令和8年 2月27日(金) 3月 5日(木) 10:00~16:30	大阪市内の福祉施設・事業所に勤務する職員	関西福祉科学大学・ 関西女子短期大学 学長 津田 耕一	人材育成の基本であり、指導的職員に期待される役割のひとつであるOJT (on the job training)の重要性と推進体制を理解して、効果的な職員の育成方法、指導方法を習得しましょう。	定 員:36人 締 切:2月6日(金) 受講料:6,000円
施設職員のための 高齢者虐待防止研修	令和8年 2月19日(木) 13:30~16:30	大阪市内の高齢者福祉施設に勤務する職員	大阪総合保育大学 短期大学部 (大阪城南女子短期大学) 現代生活学科 教授 前田 崇博	施設における高齢者への虐待を防ぐために、高齢者虐待への理解を深め、利用者主体の支援のあり方や、施設内でできる防止に向けた取組みについて考えましょう。	定 員:54人 締 切:1月25日(日) 受講料:1,500円
介護主任・ リーダー職員研修	令和8年 1月29日(木)・ 2月12日(木) 10:00~17:00	大阪市内福祉施設・事業所で 介護主任、リーダーとして勤務している職員	公益社団法人 大阪介護福祉士会	介護主任・リーダー職員として必要な基礎知識を確認するとともに、多様化する介護サービスの実態に対応できるよう、事例検討などにより実践的に学びます。	定 員:20人 締 切:1月8日(木) 受講料:6,000円

★日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

申込み・
問合せ先

研修の申込み方法▶当センターのホームページから申込むか、申込用紙をダウンロードしてFAXでお申込みください

大阪市社会福祉研修・情報センター 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272 <https://www.wel-osaka.com> kensyu@shakyo-osaka.jp

きらめき大賞表彰式& 「父と僕の終わらない歌」 上映会 参加無料

第1部

みおつくし 福祉・介護の仕事 きらめき大賞表彰式2025

福祉・介護の仕事で出会った「すてきなエピソード」の受賞作品の表彰と報告発表を行います。

日 時 令和8年1月24日(土) 13:30~16:30

会 場 大阪市社会福祉研修・情報センター
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

対象者 福祉に携わる方やテーマに関心を持つ大阪市内に在住・在勤・在学の方

定 員 100名(先着順)

申込方法 電話・FAX・ホームページ・窓口・メールのいずれかでお申込みください

申込締切 令和8年1月10日(土)17時必着

第2部

「父と僕の終わらない歌」上映会

アルツハイマー型認知症になった父とその息子が起こした奇跡の実話に基づいた映画です。

(あらすじ)

かつてミュージシャンとしてレコードデビューを目指しながらも、息子のために夢を諦めた父。楽器店を営みながら、時々地元のステージで歌声を披露しては喝采を浴びていた。ある日、父はアルツハイマー型認知症と診断されてしまう。すべてを忘れゆく父を支え続けた息子と強く優しい母、固い絆で結ばれた仲間たちの姿を描いたヒューマンドラマ。



© 2025「父と僕の終わらない歌」製作委員会



図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報



図書紹介

できるケアマネジャーになるために
知っておきたい75のこと

高瀬 比左子 編・著
メディカル・ケア・サービス 2025年

社会資源の活用や現場を変えるICTの活用法、AIケアプランやデータ連携システム、多職種連携、家族支援など、対人支援職のハブであるケアマネジャーが地域とともに新しい働き方を模索し、信頼されるケアマネジャーになるために知っておきたい75のヒント。



精神症状をもつ人のケアの疑問、3分で解説します!

薬剤、患者さんの言葉や態度への対応、認知症・せん妄・うつ病、不眠、身体拘束……、精神科医にききたいことをまとめました

井上 真一郎 著 メディカ出版 2025年

「妄想にはどう対応すればいいの?」「死にたいと言わされたら、どうしたらいい?」「せん妄と認知症はどう違う?」など、精神症状をもつ患者さんと接するときの対応について、リエゾン精神科医が解説!



だれでも防災

決定版 避難が難しい人のための一冊

鍵屋 一 監修 中央法規出版
2025年

だれかのための配慮が、みんなのためになる。体の不自由な人・持病のある人・障害のある人・高齢者・妊娠婦・乳幼児・子ども・外国人・セクシュアルマイノリティの防災を考えた待望のガイド!!災害ケースマネジメントやスフィア基準といった最新の支援知識も紹介。



ひだクリニック家族教室ドキュメント るえかふあみりーテーブル

中島映像教材出版 69分 2025年

ごく普通の精神科クリニックで、ずっと続いてきた家族教室「るえかふあみりーテーブル」。家族教室の一番の目的は、患者さんやその家族が病気について正しく知ること。そして、その悲しみや苦しさ、回復の喜びを共有すること。ある日の家族教室が記録されたDVD。



九十歳。何がめでたい

TC ET 99分 2025年

断筆宣言をした90歳の作家・佐藤愛子は、鬱々とした日々を過ごしていた。そんな彼女のものとに、中年の冴えない編集者・吉川が執筆依頼を持ち込んでくる。生きづらい世の中への怒りを歯に衣着せぬ物言いでつづったエッセイは大反響を呼び、愛子の人生は90歳にして大きく変わり始める。



淀川アジール さどyanの生活と意見

BBB 73分 2023年

大阪淀川河川敷の掘っ立て小屋で20年間暮らしている男性、さどyanのミニマムでシンプルな生活を漫画を交えてユーモラスに描いたドキュメンタリー。さどyanの生き方を通して、混迷の時代に生きるヒントを探っていく。



図書・資料閲覧室 休室のお知らせ

図書・資料閲覧室は、図書システムの更新と年末年始の休館のため、下記のとおり休室いたします。

- 令和7年12月26日(金)～令和8年1月4日(日)
(12月29日～1月3日までは年末年始のため休館)

※12月26日～12月28日、1月4日は、返却のみ1階事務所で受け付けております。

平日:午前9時～午後9時 土・日曜日:午前9時～午後5時

ご利用の皆様には、ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

★年末は12月25日(木)まで、年始は1月5日(月)より開室いたします!



毎週金曜日の開館時間を午後7時まで延長しています。ぜひご利用ください!



大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書・DVD・雑誌などを、無料で貸出しております。(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉の関係の雑誌などが充実しています。)



開室時間／月曜日～木曜日・土曜日 9:30～17:00

金曜日 9:30～19:00

休室日／日曜日・祝日(土曜日は除く)・年末年始

問合せ先／☎06-4392-8233



新着情報はこちら▲

すこやか大阪 21



介護予防ポイント事業の活動者募集中!

健康のために何かを始めたい、自分の得意なことを活かして生きがいづくりをしたいと思っていらっしゃる、そんな皆さん!

介護保険施設や障がい者施設等、幼稚園・保育所等で対象となる活動を行うと、現金に換金できるポイントが貯まり、後ほど換金(※)することができます!

**活動者として登録してみませんか?
ご連絡をお待ちしております!**

※年間10,000円まで、ご本人の口座にお振込することができます。



♪活動されている方の声♪

自分の好きなことや、得意なことが役に立って嬉しい!



元気と笑顔をもらえるのが生きがいです♪



【対象者】市内にお住まいの65歳以上の方

【活動場所】登録されている、市内の介護保険施設や障がい者施設等、幼稚園・保育所等

【活動内容】活動場所での話し相手や見守り、将棋等の対戦相手や、食事の配膳や花壇の手入れまで様々です。

幼稚園等では、絵本の読み聞かせ等、子ども達とふれあう活動もあります。

活動頻度や内容等は事前に相談でき、隨時、調整することもできます!

【参加方法】登録のための【初回の研修】(1時間半程度)を受けていただきます。

2月以降の研修日程は、ホームページやお電話等でご案内しています。

【研修日程】

日程	時間	場所	所在地
12月12日(金)	14:00~15:30	平野区社会福祉協議会	平野区平野東2-1-30
12月19日(金)	14:00~15:30	天王寺区社会福祉協議会	天王寺区六万体町5-26
1月23日(金)	14:00~15:30	中央区社会福祉協議会	中央区上本町西2-5-25
1月29日(木)	14:00~15:30	西淀川区社会福祉協議会	西淀川区千舟2-7-7

〈問合せ〉

大阪市社会福祉協議会 介護予防ポイント事業担当

大阪市天王寺区東高津町12-10

✉ kypoint@osaka-sishakyo.jp ☎ 06-6765-5610



大阪市社会福祉協議会 公式HP

今月の自助具

ホルダー付きお玉

主な適応疾患・対象者▶握る力がなかったり、痛みなどでお玉の細い柄が握れない人。



〈機能・特徴〉

- ホルダーの曲げた部分の弾性を利用して、ホルダ一内側に通した手を固定する。
- 柄の部分はアクリル材を使用しているので衛生的で、また使う人の好みに合わせた色を選ぶことができる。

〈使い方〉

- 調理の際、ホルダーの内側に手を通して使用する。
- お玉の取り付け部及び首の部分は、調理しやすい角度に調節する。

資料提供・問合せ▶特定非営利活動法人 自助具の部屋

☎ 06-4981-8492 (月・水・金 10:00~15:00)

NPO自助具の部屋ホームページ▶



健康生活

応援グッズ

入浴を快適に

軽くて持ち運びやすく、薄くて場所を取らない



◆シャワーチェア ユクリアAir

肘掛けなしで狭い浴室でも、移動⇨着座がしやすく、浴室内での動きを妨げません。軽量で持ち運びやすく、座面高さも簡単に調整できる快適なシャワーチェアです。

座面が90度ことに360度回転
体勢を崩さず方向転換できる



◆シャワーチェア 楽湯くるまるコンパクト

座席が回転するため立ち座りや方向転換がスムーズ。コンパクト設計で狭い浴室にも最適。座面は4段階で高さ調節可能で、安定性と快適さを兼ね備えたシャワーチェアです。

シャワーベンチに座ったまま
温浴できる



◆温浴シャワーベンチ HPフィット

シャワーベンチに座ったまま温浴ができる、芯まで身体が温まります。浴槽浴やハンドシャワーでの入浴介護の負担を軽減します。工事不要で簡単に設置できます。

問合せ

公益社団法人関西シルバーサービス協会
介護情報・研修センター福祉用具展示場

〒542-0012 大阪市中央区谷町7-4-15
大阪府社会福祉会館1階

☎ 06-6763-1480

✉ https://kansil.jp

今年も
開催します! “ふくし”に出会う! 笑顔がひろがる!

入場
無料

ウェルおおさか はーとフェア2025

12月6日土 10:30~15:30

会場 大阪市社会福祉研修・情報センター

- ♥見て・触れて・相談できる! 福祉体験コーナー
- ♥ゆ～とあい子どもの体験コーナー
(実験・アート<SDGs>工作)
- ♥リサイクルブックフェア
- ♥絵本読み聞かせ
- ♥ミニステージ
(踊りや演奏など楽しいパフォーマンス)
- ♥たこ焼き・クレープ・弁当・パン・手作り小物などの販売
- ♥スタンプラリー(先着300名様に景品プレゼント!)

楽しい
イベントが
たくさん!!



▲昨年度の様子

《問合せ先》大阪市社会福祉研修・情報センター
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20
☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272

どんな広告を
作ればいいのか
悩む…

何年も使っている
冊子を
新しくしたい!

内製している
チラシの評判が
よくない…

クリエイティブ関連のお悩み解決は
「ウェルおおさか」も制作している
アド・エモンにぜひお任せください!!

チラシ

パンフレット

小冊子

カタログ

会社案内

各種PRツール

取材・撮影

印刷

アニメーション動画

and more...

TOTAL CREATION
AD-EMON

株式会社 アド・エモン

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-23 丸丹ビル306号
TEL 06-6358-1010 FAX 06-6358-1011 info@ad-emon.com

<http://www.ad-emon.com>



[広告]

大阪市
社会福祉研修・情報センター

X(旧Twitter)を
チェック!

研修の告知・研修のレポート報告
普段のスタッフの様子、知って得する豆知識など
さまざまな情報を発信します!!

https://twitter.com/wel_osaka



フォローお願いします!!

CENTER INFORMATION 大阪市社会福祉研修・情報センターのご案内

開館時間／9:00～21:00まで(土・日曜日は9:00～17:00まで)

図書・資料閲覧室は9:30～17:00まで(月～土曜日)※毎週金曜日19:00まで

休館日／国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	9:00～21:00(土・日曜日は17:00まで) (会議室の申込・お支払いは9:30～17:00)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	9:00～17:00
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	9:00～17:00

貸室ご利用の皆様へ

【 貸室予約がオンラインで24時間パソコンやスマートフォンから可能となりました。】

ホームページの【貸室のご案内】よりログインし、ご予約ください。

初めてご利用される方は、事前にお問合せください。

ウェルおおさか 

【 利用申込の受付は6か月前からです。】

利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、インターネットでの予約、または電話や窓口でご確認のうえ所定の用紙でお申込みください。

電話や窓口での受付は、9:30から17:00まで。

■06-4392-8200

FAX06-4392-8206

*インターネットでの予約可能な期間は、利用日の6か月前から利用日の1週間前までです。

FAXでの申込み可能な期間は、利用日の6か月前の9:30～利用日の3日前までです。

詳しくは、ホームページの【貸室のご案内】をご覧ください。

会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。

ご予約は利用日の6か月前からです。

(単位:円)

室区分	利用人員のめやす	時間区分		午 前	午 後	夜 間	全 日
		9:30～12:30	13:00～17:00	18:00～21:00	9:30～21:00		
4階	会議室	99	3,800	5,100	3,800	11,400	
	会議室 東	45	1,900	2,600	1,900	5,800	
	会議室 西	54	2,900	3,800	2,900	8,600	
	介護実習室	36	5,700	7,600	5,700	17,100	
	演習室	18	1,000	1,300	1,000	3,000	
5階	大会議室	144	5,800	7,700	5,800	17,400	

交通

ご来所には【大阪シティバス】[JR]【大阪メトロ】をご利用ください

大阪シティバス

「長橋二丁目」バス停すぐ

52系統(なんば～あべの橋)

「中開三丁目」バス停徒歩5分

80系統(鶴町四丁目～あべの橋)

JR大阪環状線・大和路線

「今宮」駅から徒歩約10分

大阪メトロ・四つ橋線・御堂筋線

「花園町」駅(①・②出口)から徒歩約15分

「大国町」駅(⑤出口)から徒歩約15分

所在地／〒557-0024

大阪市西成区出城2丁目5番20号

設置主体／大阪市

運営主体／(指定管理者)

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

電話／■06-4392-8200(代表)

ファックス／FAX06-4392-8206

U R L/<https://www.wel-osaka.com>

Facebookもチェック



X(旧Twitter)もチェック



「ウェルおおさか」に広告を掲載しませんか

詳しくはお問合せください…

大阪市社会福祉研修・情報センター

■06-4392-8201 FAX06-4392-8272 kensyu@shakyo-osaka.jp



[テーマ]いじめ問題

人権啓発キャッチコピー

だいじょうぶ きみのそばには みんないる。

佐々木 実響子さん(令和6年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー 小学生(高学年)の部 佳作)